

教員用

シラバス作成の手引き

2023 年度版

Ver. 3.42

目次

目次.....	i
シラバスのサンプル	2
I. シラバス様式の変更について.....	4
II. シラバスのチェック体制について	4
III. シラバスの項目について	4
1. ナンバリング	5
2. 授業科目名（科目の英文名）	5
3. 授業の概要	5
4. 具体的な到達目標・DP 等の対応.....	6
5. 授業の内容.....	11
6. アクティブ・ラーニング	12
7. その他の工夫	15
8. 時間外学修の内容と時間の目安	16
9. 教科書.....	17
10. 参考書	17
11. 成績評価の方法及び評価割合.....	18
12. 注意事項	19
13. 備考	19
14. リンク	19
15. 実務経験者	20
IV. 教務情報システム CampusSquare によるシラバス登録方法.....	22

■シラバスチェックリストの例

シラバスチェックの結果、並びにその改善の取組及び改善後の結果について各部局で取り纏めます。

シラバス項目等	番号	チェック項目	補 足
全般	<input type="checkbox"/> 1	全項目において記入しており、空欄や「なし」、「特になし」等の項目はない	● 「その他の工夫」、「注意事項」、「備考」、「リンク」の項目、および担当教員の実務経験や教員以外で指導に関わる実務経験者が無い場合の「教員の実務経験の有無」、「実務経験」、「教員以外で指導に関わる実務経験者の有無」、「教員以外の指導に関わる実務経験者」、「実務経験をいかした教育内容」の項目は除く
授業の概要	<input type="checkbox"/> 2	学生が理解できる表現にしている	
具体的な到達目標	<input type="checkbox"/> 3	学生を主体（主語）とした目標にしている	● 1 つの目標に複数の内容を含んでいる場合は、分割を検討する（最大 10 項目）
	<input type="checkbox"/> 4	「〇〇できる」といった、観察・測定可能で具体的な目標（知識・技能・態度）にしている	
	<input type="checkbox"/> 5	最も対応する DP の項目 1 つ（複数も可）にチェックしている 【※ 経済学部専門科目を除く】	
授業の内容	<input type="checkbox"/> 6	「同上」や「〃」、「前回と同じ」等の表現を用いず、すべての回で 1 回ごとの内容を記入している	● 授業時間外で実施する最終試験は内容に含めない
アクティブ・ラーニング	<input type="checkbox"/> 7	実施するアクティブ・ラーニングのタイプ（A～D）に 1 つ以上チェックしている 【※ 経済学部専門科目を除く】	● アクティブ・ラーニングを実施していない場合は、実施を検討する
	<input type="checkbox"/> 8	実施するアクティブ・ラーニングの具体的な手法や内容等について記入している	
時間外学修の内容と時間の目安	<input type="checkbox"/> 9	具体的な事前・事後学修の内容を記入している	● 事前・事後学修の両方が設定されていない場合には検討する（記入例：「テキストを事前に読んでおく（5 h）」、「教材を用いて復習する（10 h）」、「合格するまで小テストに取り組む（3 h）」） ● 「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成」するように、時間外学修の時間の目安の合計を設定する
	<input type="checkbox"/> 10	事前・事後学修の内容ごとに、丸括弧内に時間外学修に要する目安の時間数を記入している	
教科書	<input type="checkbox"/> 11	著者名、書名、出版社、出版年を記入している	● 教科書を使用しない場合は、「教科書を指定しない」、「資料を配付する」等を記入する ● 改版や絶版などの最新の情報を確認する
参考書	<input type="checkbox"/> 12	著者名、書名、出版社、出版年を記入している	● 参考書がない場合は、「参考書を指定しない」、「資料を配付する」等を記入する
成績評価の方法及び評価割合	<input type="checkbox"/> 13	すべての評価方法に「割合」を百分率で記入し、合計を 100%にしている	● 多様な評価方法（2 つ以上）を用いていることが望ましい
	<input type="checkbox"/> 14	「具体的な到達目標」で示した目標と評価との対応づけを行い、すべての「具体的な到達目標」について評価する方法を用意している 【※ 経済学部専門科目を除く】	

シラバスのサンプル (PDF版の出力イメージ)

ナンバリング		授業科目名 (科目の英文名)				区分・【新主題】 / (分野)										
AA42G113		創造的思考法 (Creative Thinking Skills)				全学共通主題 *大分を創る科目 【福祉・地域】 / (総合)										
必修選択	単位	対象年次	学部	学期	曜・限	担当教員										
選択	2	1・2・3・4	教・経・福・医・理	前期	水1	氏名 大分 太郎 E-mail aaaaa@oita-u.ac.jp 内線 0000										
授業の概要	<p>情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。これらは、自由記述式の質問紙法、口頭による自由回答法の回答の分析をはじめ、企画、会議、プレゼン、人材育成、情報収集と分析などの場面で対応できる。大分の地域活性化に関するテーマでアイデアを出し、グループによるブレインストーミングを経て、創造的思考ができるようになることをめざす。 【全角 383 (半角 766) 字以内 (改行は全角 1 文字)】</p>															
具体的な到達目標						DP等の対応(別表参照)										
目標 1	アイデアや情報を整理・視覚化したマインドマップを作成できる。 【1つの目標につき全角 58 (半角 116) 字以内】					1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	
目標 2	ブレインストーミングの意義や効果的な実施方法を説明できる。					○										
目標 3	ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。						○									
目標 4	親和図法を解法を用いて断片情報を階層的にまとめ、関係性を可視化できる。							○								
目標 5	大分の地域活性化を題材とした親和図法を解法をもとに文章化できる。								○							
目標 6																
目標 7																
目標 8																
目標 9																
目標 10																
授業の内容																
1	【ブロック1】オリエンテーション、マインドマップ練習：「しあわせ」マインドマップを作成する。 【1回につき全角 74 (半角 148) 字以内】															
2	マインドマッピングとは、Xmindの使い方：Xmindで「しあわせ」マインドマップを作成する。															
3	自己分析マインドマップの作成：自分自身についてのマインドマップを作成する。															
4	読書マインドマップの作成：1冊の本からマインドマップを作成する。マインドマップのまとめ【課題1】															
5	【ブロック2】アイスブレイク、マシュマロチャレンジ：グループでマシュマロチャレンジをする。															
6	ブレインストーミングとは：順番ブレインストーミングの練習をする。【課題2】															
7	大分の地域活性化に関するブレインストーミング：グループで順番ブレインストーミングをする。【課題3】															
8	【ブロック3】親和図法—紙切れ作り・紙切れ集め・表札づくり：ブレインストーミングの結果を紙切れにし集める。															
9	親和図法—グループのグループ化・空間配置：A型解法の空間配置をする。															
10	親和図法—関係線の描画：A型解法を完成させる。【課題4】															
11	親和図法—B型文章化：B型文章化で発想する。【課題5】															
12	【ブロック4】親和図法(2)—A型解法：大分の活性化に関するブレインストーミングの結果を可視化する。															
13	親和図法(2)—A型解法(2)：A型解法を完成させる。【課題6】															
14	親和図法(2)—B型文章化：B型文章化で発想する。【課題7】															
15	総まとめと最終課題【課題8】															
ラック クニ ン グ	<p>A:知識の定着・確認 ○ 演習、小テスト、ルーブリックによる自己評価、 B:意見の表現・交換 ○ グループ・ペアでの共同作業、省察ミニッツペーパー、マインドマップ、 C:応用志向 ○ ブレインストーミング、KJ法 D:知識の活用・創造 【全角 125 (半角 250) 字以内 (改行は全角 1 文字)】</p>					その他 の工 夫	アイスブレイク、動画の活用、LMS (Moodle) の活用、タスクは各自のペースで実施 【全角 110 (半角 220) 字以内 (改行は全角 1 文字)】									
時間外学 修の内容	準備 配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(5h)。ブレインストーミングの準備をする(3h)。 学修 【全角 140 (半角 280) 字以内 (改行は全角 1 文字)】															
と時間の 目安	事後 授業で学習を活かし、課題の完成度を高める(マインドマップの課題(5h)、親和図法A型解法(20h)、親和図法B型文章化(4h))。小テストや配付資料を用いて学修 復習する(8h)。 【全角 140 (半角 280) 字以内 (改行は全角 1 文字)】															
教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントや小冊子を使用する。 【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】															
参考書	川喜多二郎『続・発想力』中公新書、1970年、ISBN9784121002105 トニーザン・バリーザン(著)、近田美季子(翻訳)『新版ザ・マインドマップ—脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013年、ISBN9784478017166 【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】															
成績評価 の方法 及び 評価割合	評価方法	割合	目標 1	目標 2	目標 3	目標 4	目標 5	目標 6	目標 7	目標 8	目標 9	目標 10				
	マインドマップ【課題1】 【1つの「評価方法」につき全角 42 (半角 84) 字以内】	30%	○													
	小テスト	5%		○												
	ブレインストーミング結果【課題2・3】	5%			○											
	親和図法A型解法【課題4・6】	40%				○										
	親和図法B型文章化【課題5・7】	15%				○	○									
	最終課題【課題8】	5%	○	○	○	○										
すべての小テストおよび課題の合格を単位取得の条件とする。 【全角 150 (半角 300) 字以内 (改行は全角 1 文字)】																
注意事項	「情報処理入門」を履修済みか履修中であること。 【全角 144 (半角 288) 字以内 (改行は全角 1 文字)】															
備考	コンピュータ教室を使用するため、履修希望者が教室の収容人数を超える場合には抽選を実施する。 【全角 144 (半角 288) 字以内 (改行は全角 1 文字)】															
リンク	授業についての詳細な内容については、以下のページを参照すること。 【全角 72 (半角 144) 字以内】 URL https://sample.oita-u.ac.jp/course/20xx/cts/ 【半角 270 字以内】															

担当教員の実務経験の有無		
教員の实務経験	【全角 72 (半角 144) 字以内 (改行は全角 1 文字)】	
教員以外で指導に関わる 実務経験者の有無		
教員以外の指導に関わる 実務経験者	【全角 72 (半角 144) 字以内 (改行は全角 1 文字)】	
実務経験をいかした 教育内容	【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】	

I. シラバス様式の変更について

2018 年度第 8 回全学教育機構運営会議において、2019 年度の開講科目からシラバス様式を変更することが了承されました。本手引きは、変更後のシラバス様式でのシラバスの作成について説明するものです。

II. シラバスのチェック体制について

本学では、すべての科目において適切なシラバスが作成されていることを確かめるために、表 0-1 のようなチェック体制を設けています。

表 0-1 シラバスのチェック体制について (2018 年 2 月 23 日現在)

学部等	チェック体制
教育学部	①教務委員会でチェックシートを作成する ②シラバス作成者はチェックシートでセルフチェックを行う ③小講座単位で相互チェックを行う ④学務係で集約する (チェックは行わない)
経済学部	これまでも、授業の内容について 15 回に分けて記入しているか等のチェックを行ってきたので、教務委員会で同様なチェックを引き続き行っていく。
医学部	教務委員会、医学教育統括会議(MEDIC)でピア・レビューを行う。
理工学部	教員が作成したシラバスを、教務委員が記載内容についてチェックし、反映させる。
福祉健康学部	教務委員会でピア・レビューを行う。
教養教育	【外国語科目】 外国語科目専門部会でチェックする。 【身体・スポーツ科学科目】 身体・スポーツ科学科目専門部会でチェックする。 【その他の学部提供科目】 各学部でチェックを行う。

平成 29 年度第 10 回全学教育機構運営会議 (2018 年 2 月 28 日) 資料 3

III. シラバスの項目について

本手引きの 1 ページに示す様式の主な項目について、上から順に説明しています。次ページ以降をご覧ください。

1. ナンバリング [2019年度から追加]

ナンバリングとは、教育課程の体系を表したり、学修の段階や学修すべき順序等を示したりする授業科目ごとの番号です。科目設置の際に決められたナンバリングは自動的に入力されるため、科目担当教員が入力する必要はありません。

表1 記載例) ナンバリング

ナンバリング
AA42G113

「ナンバリング」記載の背景

文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、シラバスへの「当該授業科目の教育課程内の位置づけや水準を表す数字や記号（ナンバリングを含む）」の記載が挙げられています。これは、国際的な動向を踏まえた大学教育の展開の一環として求められている項目です。

2. 授業科目名（科目の英文名） [変更なし]

授業科目名と科目の英文名を記入してください。

表2 記入例) 授業科目名（科目の英文名）

授業科目名（科目の英文名）
創造的思考法 (Creative Thinking Skills)

3. 授業の概要 [2019年度から名称変更]

授業の概要を記入してください【全角 383 (半角 766) 字以内 (改行は全角 1 文字)】。授業の主旨や意義を書くことができます。

表3 記入例) 授業の概要

授業の概要	情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。これらは、自由記述式の質問紙法、口頭による自由回答法の回答の分析をはじめ、企画、会議、プレゼン、人材育成、情報収集と分析などの場面で対応できる。大分の地域活性化に関するテーマでアイデアを出し、グループによるブレインストーミングを経て、創造的思考ができるようになることをめざす。
-------	---

「授業の概要」への項目名変更の背景

2018年度までの項目名は、「授業のねらい」でした。広辞苑第七版は「ねらい」を、「達成しようとするめあて。意図。」と定義しています。達成しようとするめあてについては「具体的な到達目標」の項目があること、一方で授業の概要に関する項目がなかったことから、「授業のねらい」を「授業の概要」に変更しました。

4. 具体的な到達目標・DP 等の対応 [2019 年度から様式の変更・追加]

具体的な到達目標を箇条書き（最大 10 項目）で記入してください【1 つの目標につき全角 58（半角 116）字以内】。加えて、ディプロマ・ポリシー（DP と略す）等の対応を記してください。到達目標と DP 等との対応については、原則として到達目標ごとに最も当てはまる DP 等 1 つを選択してください（複数の DP 等に該当する場合は、目標を分割することも検討できます）。成績評価の対象としない到達目標は記入しないでください。成績評価の対象としない到達目標がある場合には、成績評価に新たな方法を加えることを検討してください（17 ページ参照）。

到達目標の主語は学生にしてください。目標に到達する主体は学生であるからです。

学生が主語の例) 身の回りにある物質をその性質によって分類できる。

教員が主語の例) 身の回りにある物質の性質を理解させる。

到達目標の述語は観察可能な動詞にしてください。目標に到達したことを担当教員や学生自身が確認することを容易にするためです。

観察可能な動詞の例) 身の回りにある物質をその性質によって分類できる。

観察困難な動詞の例) 身の回りにある物質の性質を理解できる。

表 4-1 観察可能な動詞と観察困難な動詞の表現例

観察可能な動詞の例 (学生の行為)	観察困難な動詞の例 (学生の脳内の変化)
<ul style="list-style-type: none"> ● 述べる ● 書く ● 列挙する ● 挙げる ● 説明する ● 表現する 	<ul style="list-style-type: none"> ● わかる ● 理解する ● 知る ● 覚える ● 記憶する ● 覚える ● 考える ● 感じる ● 学ぶ ● 養う ● 培う ● 身につける
<ul style="list-style-type: none"> ● 分類する ● 判別する ● 区分する ● 比較する ● 関係づける ● 分析する ● 特定する ● 予測する ● 応用する ● 適用する ● 批判する ● 提案する 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 採用する ● 評価する ● 一般化する 	
<ul style="list-style-type: none"> ● 実施する ● 実演する ● 模倣する ● 操作する 	
	<ul style="list-style-type: none"> ● (ある行動を) 選択しようとする ● 参加しようとする ● 自発的に○する ● 協力する

1 つの到達目標に多くの異なる内容が含まれている場合は、目標を分割することを検討してください。

多くの異なる内容が含まれている例) バレーボールとバスケットボールについて、ルールを踏まえたうえで、チームのメンバーで協同して効果的な作戦を立て、フェアプレーの精神をもって、実践形式のゲームができる。

専門科目の到達目標と対応づける DP 等の別表については、各学部・学科・コース等で統一的に設定されますので、今後指定される別表に従ってください。

1 科目の複数の到達目標のうち、いくつかについて対応しない DP 等が生じても問題ありません。

教養教育科目の到達目標については、以下に示す全学 DP の 6 項目のうちから到達目標ごとにそれぞれ最もあてはまる 1 項目を選択してください。なお、複数を選択することも可能です。

大分大学卒業認定・学位授与の方針（DP：ディプロマ・ポリシー）

<http://oita-u.ac.jp/13joho/diplomapolicy.html>

1. 専門的知識・技能の活用 (Application of Expert Knowledge and Skills)
専門分野に関する基礎的な知識や技能を横断的・総合的に活用することができる。
2. コミュニケーション能力 (Written and Oral Communication Skills)
日本語や外国語を用いて、自らの意見を文章および口頭で論理的に表現できるとともに、他者の意見を傾聴することによって、多様な人たちと円滑に相互理解を図ることができる。
3. 創造的問題解決力 (Creative Problem Solving Skills)
個人または他者との協働で、課題を発見し、批判的思考法を用いた創造的解決策の提案、解決への取り組みを行うことができる。
4. 社会的責務と倫理 (Social Responsibility and Ethical Reasoning)
社会のルールや規範に則り、自らの良心と良識に従って行動することができる。
5. 地域発展・人類福祉への貢献 (Contribution to Regional Development and Human Welfare)
インクルーシブな視点を持ち、多様な文化・価値観を尊重しつつ、社会における自己の責任と使命を認識して、地域の発展と人類福祉の向上のために行動することができる。
6. 生涯学習力 (Lifelong Learning Skills)
学ぶべき内容を自ら把握して目標を設定し、高い学習意欲と探究心を持って主体的に学修することができる。

表 4-2 記入例) 具体的な到達目標・DP 等の対応 (教養教育科目の場合)

具体的な到達目標	DP 等の対応(別表参照)	1. 専門的知識・技能の活用 2. コミュニケーション能力 3. 創造的問題解決力 4. 社会的責務と倫理 5. 地域発展・人類福祉への貢献 6. 生涯学習力												
		1	2	3	4	5	6	7	8	9	10			
目標 1	アイデアや情報を整理・視覚化したマインドマップを作成できる。			○										
目標 2	ブレインストーミングの意義や効果的な実施方法を説明できる。	○												
目標 3	ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。		○											
目標 4	親和図法図解化を用いて断片情報を階層的にまとめ、関係性を可視化できる。			○										
目標 5	大分の地域活性化を題材した親和図法図解化をもとに文章化できる。					○								
目標 6														
...														
目標 10														

複数の学部・学科・コース等科目の具体的な到達目標と「DP等の対応」の対応例

本シラバス様式では、具体的な到達目標と単一の DP 等の対応だけしか示すことができません。ここでは、複数の学部や学科、コース等科目の具体的な到達目標と「DP等の対応」の対応例を示します。

以下は、コースの DP を用いることとしている学部における、同一の科目が複数の学部や学科、コースの科目になっている場合についての対応例です。

対応例 1

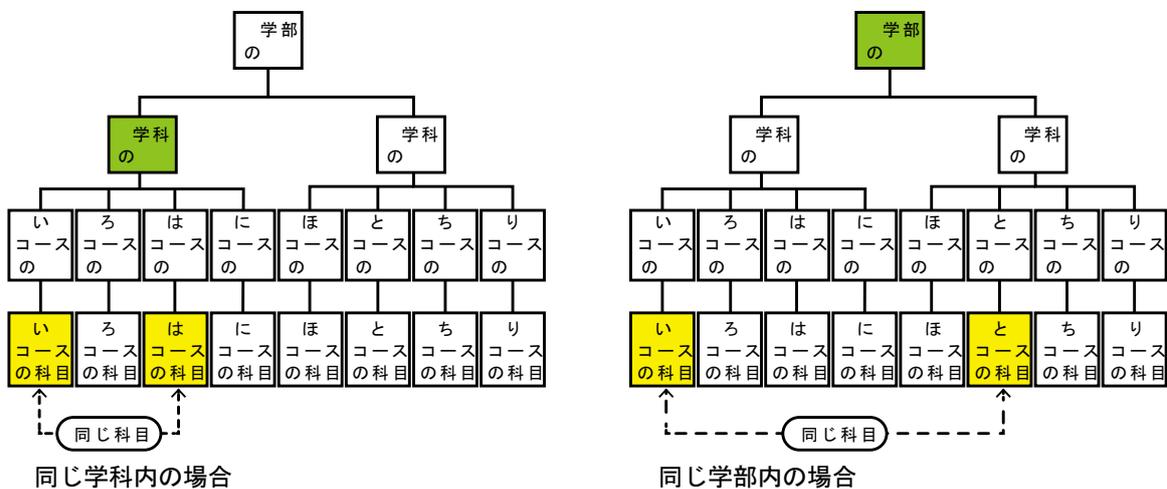
主な対象となっているコースや、主な授業担当者のコースがある場合には、便宜的に特定のコース DP を選択することができます。「備考」欄に、「複数〇〇科目であるが、具体的な到達目標の「DP等の対応」は〇〇DP を記載している。」といったような記述をしておくことができます。

授業のなかで必要に応じて、具体的な到達目標と各コース DP との対応を別途示すことができます。

対応例 2

例外的に特定のコース DP を参照せずに、上位の DP を参照することができます。以下の図に示すように、同じ学科内の複数コース科目の場合は学科 DP を、同じ学部内の複数コース科目の場合は学部 DP を参照します。複数学部科目の場合は、大学 DP を参照することにします。

「備考」欄に、「複数〇〇科目であるため、具体的な到達目標の「DP等の対応」は〇〇コース DP を参照のこと。」といったような記述をしておくことができます。



対応例 1、対応例 2、もしくは場合に応じて両方のいずれの方法を採用するかについては、学部等の指示に従ってください。

「具体的な到達目標・DP 等の対応」の記載の背景

DP は以下に示す三つのポリシーの 1 つです。DP は、三つのポリシーの核となるものです。

表 4-3 三つのポリシーを構成する各ポリシーについての基本的な考え方

ディプロマ・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念に基づき、どのような力を身に付けた者に卒業を認定し、学位を授与するのかを定める基本的な方針であり、 <u>学生の学修成果の目標ともなるもの。</u>
カリキュラム・ポリシー	ディプロマ・ポリシーの達成のために、どのような教育課程を編成し、どのような教育内容・方法を実施し、学修成果をどのように評価するのかを定める基本的な方針。
アドミッション・ポリシー	各大学、学部・学科等の教育理念、 <u>ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーに基づく教育内容等を踏まえ、</u> どのように入学者を受け入れるかを定める基本的な方針であり、受け入れる学生に求める学習成果（「学力の 3 要素」についてどのような成果を求めるか）を示すもの。

(中央教育審議会大学分科会大学教育部会 2016、強調引用者)

文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、シラバスへの「人材養成の目的もしくは学位授与の方針と当該授業科目の関連」の記載が挙げられています。また、本学が目標に照らして学士課程教育の諸活動について点検・評価し、内部質保証のために、科目の到達目標と DP との対応が追加されました。大学の教育目標や DP 等（学位授与の方針）と科目の到達目標との対応が示されることによって、卒業に必要な単位を修得した学生が、大学の教育目標や DP 等（学位授与の方針）に到達するように教育されていることを明らかにできます。

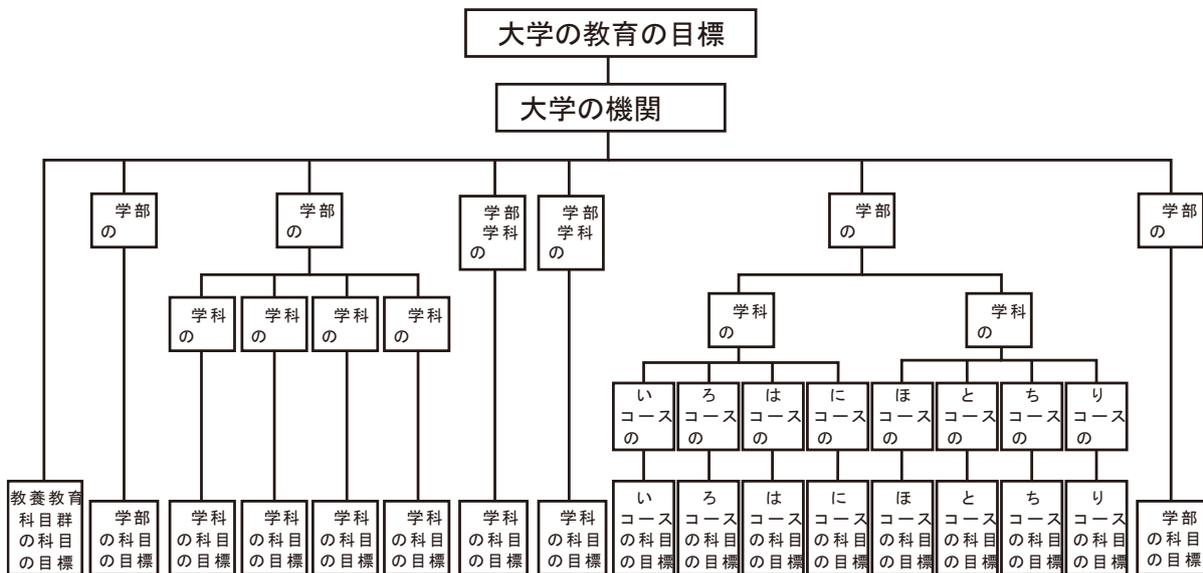


図 4-1 大学の教育目標からそれぞれの科目の目標までの体系の例

表 4-4 機関 DP と整合性のあるカリキュラムの DP および科目の目標の例

大学（機関）レベル DP	多様な読み手に対して、文章による効果的なコミュニケーションができる。	
学部（学科・コース）レベル DP	経営学部	専門家や一般の読み手に対して、一般的なビジネス書式を使った効果的なコミュニケーションができる。
科目レベルの目標	財政学	〇〇書式の財政報告書を書くことができる。

(Walvoord 2010、引用者訳)

科目の到達目標と DP 等との対応づけを行うためには、1 つの到達目標に多くの異なる内容が含まれている場合には困難です。また、到達目標と評価の方法を関連付けることも念頭に置く必要があります。多くの異なる内容が含まれる到達目標では、到達目標の一部の達成度は高かったものの、他の一部の達成度が低かった場合、評価は不明瞭なものとなります。これらのことから、到達目標は箇条書きでの様式に変更されました。

「新たな未来を築くための大学教育の質的転換に向けて」（平成 24 年 8 月 28 日中央教育審議会答申）では、「学生に求められる能力をどのようなプログラムで育成するか（学位授与の方針）を明示し、その方針に従ったプログラム全体の中で個々の授業科目は能力育成のどの部分を担うかを担当教員が認識」することが必要であるとしています。

科目の到達目標と DP 等との対応は、学生が DP の到達度を省察する際に必要な情報です。学生が学修ポートフォリオ等を活用して一定の期間ごとに学修を省察するプロセスで、履修科目の到達目標と DP 等との対応情報は、自身の DP 到達度の評価を支援するものとなります。また、学生がその後の学修をどのように進めていくかの計画を立てる際に、これから受講しようとする科目の到達目標と DP 等との対応情報が参考になります。

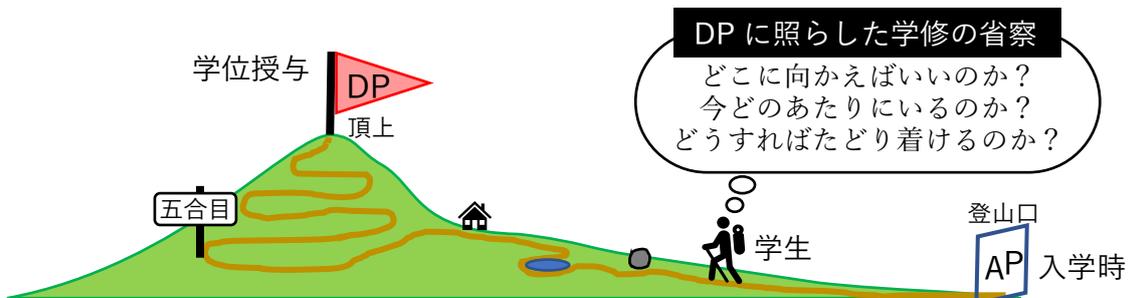


図 4-2 学士課程教育で学生が DP を意識して学ぶイメージ

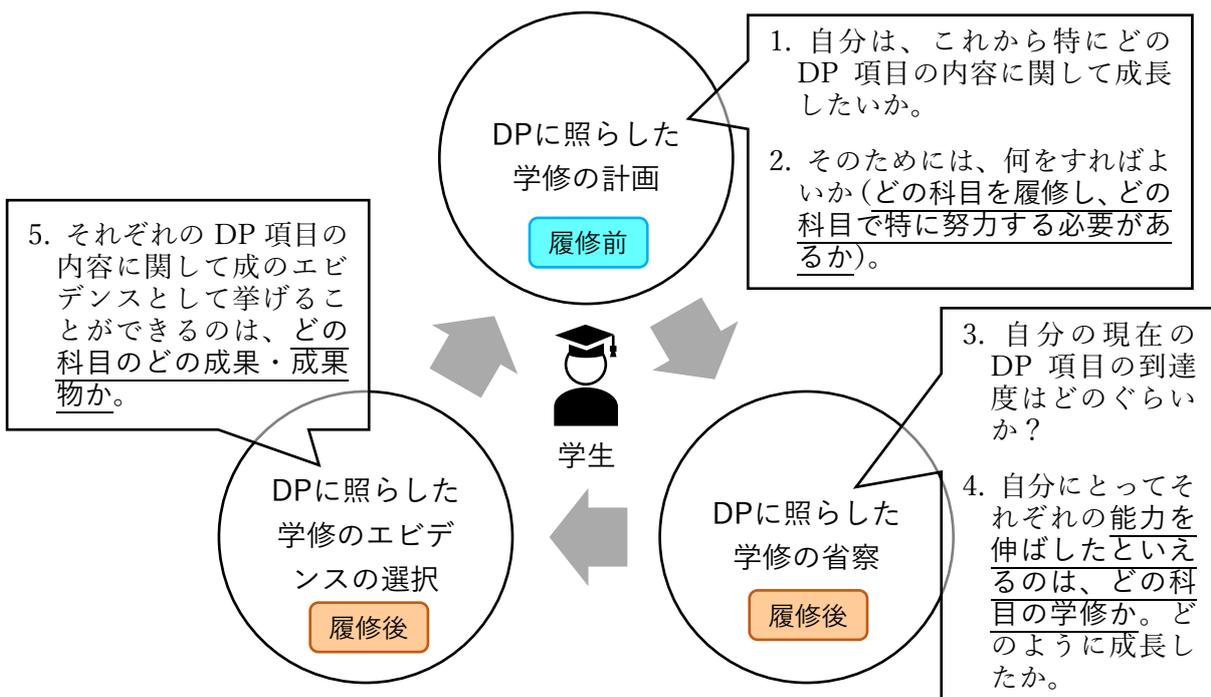


図 4-3 DP に照らした学生の学修サイクル

科目の目標に基づく
科目単位の学修の省察



木

DP に基づく学士課程を通じた学修の省察



森

図 4-4 科目単位の学修の省察と課程を通じた学修の省察の違いのイメージ

5. 授業の内容 [2019 年度から様式の変更]

授業の内容を授業回ごとに記入してください【1 回につき全角 74 (半角 148) 字以内】。試験の回は含めないでください。授業回は、15 回と 30 回のいずれかを選択できます (8 回の授業は、15 回を選択してください)。

表 5-1 の記入例のように授業のテーマの後に「:(コロン)」を入力して、簡単な説明を加えることもできます。

表 5-1 記入例) 授業の内容

授業の内容	
1	【ブロック 1】オリエンテーション、マインドマップ練習: 「しあわせ」マインドマップを作成する。
2	マインドマッピングとは、Xmind の使い方: Xmind で「しあわせ」マインドマップを作成する。
3	自己分析マインドマップの作成: 自分自身についてのマインドマップを作成する。
4	読書マインドマップの作成: 1 冊の本からマインドマップを作成する。マインドマップのまとめ [課題 1]
5	【ブロック 2】アイスブレイク、マシュマロチャレンジ: グループでマシュマロチャレンジをする。
6	ブレインストーミングとは: 順番ブレインストーミングの練習をする。[課題 2]
7	大分の地域活性化に関するブレインストーミング: グループで順番ブレインストーミングをする。[課題 3]
8	【ブロック 3】親和図法一紙切れ作り・紙切れ集め・表札づくり:ブレインストーミングの結果を紙切れにし集める。
9	親和図法一グループのグループ化・空間配置: A 型図解化の空間配置をする。
10	親和図法一関係線の描画: A 型図解化を完成させる。[課題 4]
11	親和図法一B 型文章化: B 型文章化で発想する。[課題 5]
12	【ブロック 4】親和図法 (2) -A 型図解化: 大分の活性化に関するブレインストーミングの結果を図解化する。
13	親和図法 (2) -A 型図解化 (2): A 型図解化を完成させる。[課題 6]
14	親和図法 (2) -B 型文章化: B 型文章化で発想する。[課題 7]
15	総まとめと最終課題 [課題 8]

表 5-2 2 つのクラス (A クラスと B クラス) で異なる授業の内容の記入例

授業の内容	
1	A クラス 1: オリエンテーション、マインドマップ練習
2	A クラス 2: マインドマッピングとは、Xmind の使い方
...	...
15	A クラス 15: 総まとめ
16	B クラス 1: オリエンテーション、マインドマップ練習
17	B クラス 2: 親和図法、IdeaFragment2 の使い方、紙切れ作り
...	...
30	B クラス 15: 総まとめ

6. アクティブ・ラーニング [2019年度から項目名・様式変更]

アクティブ・ラーニングとして取り組んでいる方策等を記入してください【全角 125(半角 250)字以内 (改行は全角 1 文字)】。表 6-2 の方策の例や具体例も参考にできます (文章での説明も可能です)。加えて、アクティブ・ラーニングの 4 タイプ (詳細は図 6-1、表 6-2 を参照) のうち、取り組んでいるタイプを選択してください (複数選択可)。タイプ選択の際には、「タイプの説明」 (次ページ) を参照してください。

アクティブ・ラーニング以外の工夫については、「その他の工夫」欄に記載してください。

表 6-1 記入例) アクティブ・ラーニング

ラ ー ニ ン グ	A:知識の定着・確認	○	演習、小テスト、ループリックによる自己評価、グループ・ペアでの共同作業、省察のためのコメントレポート、マインドマップ、ブレインストーミング、KJ 法
	B:意見の表現・交換	○	
	C:応用志向		
	D:知識の活用・創造		

「アクティブ・ラーニング」の記載の背景

2018 年度までは、授業の内容欄に【学生がより深く学修するための工夫】欄を手入力で作成をお願いしていました。この欄を「アクティブ・ラーニング」と「その他の工夫」に分けました。

本学の第 3 期中期計画では、「学生の能動的・主体的学習を促し、学習意欲向上や学生のキャリアパスを見据えた教育課程を担保するため、能動的学修 (アクティブ・ラーニング) を取り入れた授業比率を 80% 以上に高める」ことを掲げています。また、文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、「カリキュラム編成に当たり、能動的学修 (アクティブ・ラーニング) を効果的にカリキュラムに組み込むための検討を行」うことが挙げられています。

アクティブ・ラーニングを取り入れた授業には、一方向的な知識伝達型講義の形式を保持しつつも学生が学修に参加する形式を加える授業から、学生の能動的な学修を中心にした授業までが含まれます。教学 IR の観点からアクティブ・ラーニングの取組状況を把握するために、教育マネジメント機構教学マネジメント室 (旧高等教育開発センター) では、どのような目的で導入しているかによってアクティブ・ラーニングを 4 タイプに分類しています。今後、アクティブ・ラーニングの 4 タイプの集計結果を参考に、カリキュラムの改善の検討ができるようにすることも視野に入れていきます。

学生が履修する授業を選択する際、授業にどのようなアクティブ・ラーニングが組み込まれているかの情報は重要です。学生が学習者特性に応じて、自身の適性にあったアクティブ・ラーニングが導入されている科目を選択したり、低い特性を高めるようなアクティブ・ラーニングが導入されている科目を選択したりすることができるようにするためです。積極的にコミュニケーション能力や課題解決能力を高めたい学生は、具体的なアクティブ・ラーニングの活動が記載されている授業を選択できます。一方で、知識伝達型講義を好む学生や、他人との社会的関係の形成に困難さを感じる学生にとっても、受講を検討する際の参考とすることが可能になります。

アクティブ・ラーニングに関する参考資料

教育マネジメント機構教学マネジメント室（旧高等教育開発センター）では、アクティブ・ラーニングの視点にもとづいた授業を推進するとともに、教育改善を目的とした教学 IR の観点からアクティブ・ラーニングの取組状況の把握しやすくするために、国内外のアクティブ・ラーニングの分類を調査し、国内の高等教育機関及び本学の状況を踏まえたうえで、アクティブ・ラーニングの取組を 4 タイプに分類しています（図 6-1）。2016 年 8 月に作成した 4 タイプの例（表 6-2）は、2017 年 3 月の全学教員対象の調査結果をもとに改訂し、その後も逐次改訂しています。

■ アクティブ・ラーニングの視点にもとづいた授業

- 読解、作文、発表、討論、問題解決、創造などの学生の活動への関与があり、それらで生じる認知プロセスの外化を伴っている授業
- 学生が自ら目標を定め、計画して学修に取り組み、省察して次の学びにつなげていく過程を実現する「主体的な学び」
- 他者との協働や外界との相互作用を通じて考えを発展させる「対話的な学び」
- 学んだ知識を活かして問題発見・解決や創造を行う「深い学び」



図 6-1 活動の範囲と構造の自由度によるアクティブ・ラーニングの 4 タイプ

表 6-2 アクティブ・ラーニングの 4 タイプと例 (2018 年 8 月 31 日改訂版 [Ver.4.2])

タイプ	タイプの説明	方策の例	具体例	備考
(A) 知識の定着・確認	知識の定着およびそれらを確認する、主に個人の学修	レスポンスアナライザー	クリッカー	
		小テスト, 演習, 実技	中間テスト, 口頭試問, 穴埋め資料, 質疑応答, 作問	
		知識の定着・確認を図るレポート・ライティング	ミニッツペーパー	表現志向のものは(B)
		時間外学修	予習(反転学修を含む), 復習, 宿題	他者との協働や相互作用のあるものは(B)
		体験, 実験, 観察	手順通りの実験・実習, 体験活動, 見学, 傍聴, 実体験を伴わない学生の過去の体験との紐付け	
		調査	調べ学修(文献, インターネット), 多読	
(B) 意見の表現・交換	知識や意見を表現したり交換したりする他者との相互作用のある学修	発問発表	指名発問, リレー発問	
			プレゼンテーション, パネルディスカッション, カンファレンス	
		話し合い	ディスカッション(ガイド付き・フリー), ブレインストーミング, ラウンドロビン, バズグループ, シンクペアシェア, ワールドカフェ, デイベート, マイクロデイベート, アイディアソン	
		教え合い・学び合い	ジグソー, 知識構成型ジグソー法, LTD(Learning Through Discussion), 相互教授(ピアインストラクション), ラーニングセル, リーディングサークル, カタリ場	問題解決が含まれる場合は(C)も参照
		図解	コンセプトマップ, KJ法A型図解化, マインドマップ	
		文章作成	学びの省察(ポートフォリオを含む), 表現志向のレポート・ライティング, 読書感想文, 看図作文, 共同的執筆	知識の定着・確認を図るものは(A)
(C) 応用志向	知識やスキルを現実で起こりうる状況に用いたり問題解決する、主に教室等での学修	問題基盤学修[PBL](Problem-Based)	チュートリアル, 四面会議システム	
		シミュレーション, ゲーム	危険予知訓練(KYT), バーンガ	シナリオベース
		ロールプレイ, 演劇	模擬授業	
		仮説の検証や探索を伴う実験		
		ケースメソッド	シナリオ・事例研究, 事例設定型教授(Case-Based)	学修者主体のもの
		チーム基盤型学修[TBL](Team-Based)		
(D) 知識の活用・創造	知識やスキルを現場で活用する学修や、創造的な学修	プロジェクト学修[PBL](Project-Based)	ハッカソン(アイディアソンとセットで)	
		実習	教育実習, 臨地実習, 海外実習, 現地実習	
		インターンシップ		省察を伴う
		サービスラーニング	評価を伴うボランティア活動	省察を伴う
		フィールドワーク	聞き取り調査(インタビュー), アンケート調査	受動的な見学や体験活動は(A)
		観測		
		創成学修	ものづくり実習, 動画作成	
		芸術創作		
設計, デザイン, 意匠				
研究, 論文作成	卒業論文, 修士論文			

注 1) 1 教育活動に複数のタイプや方策が組み合わされて用いられることがある。また、1 方策を複数のタイプに分類できる場合がある。

注 2) 同じ教育活動であっても、実施の目的や意図、文脈によって異なるタイプに分類されることがある。

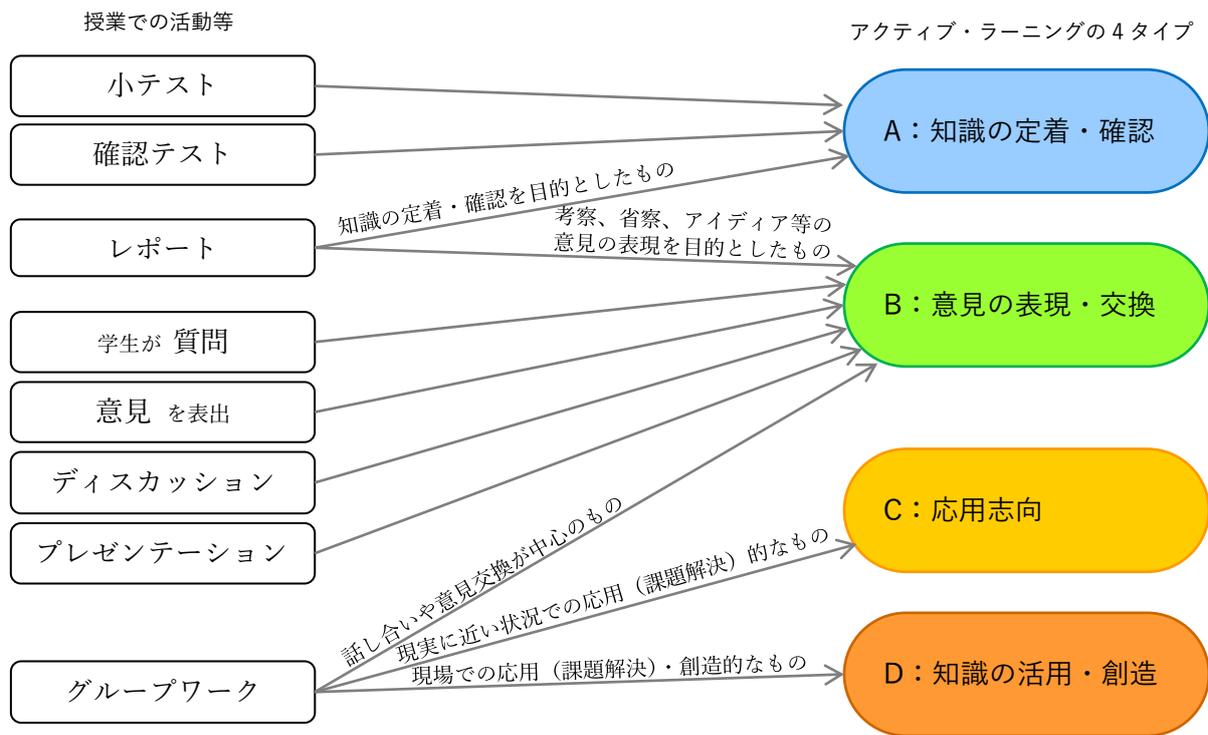


図 6-2 授業での活動等をアクティブ・ラーニングの4タイプに分類した例

7. その他の工夫 [2019年度から追加]

アクティブ・ラーニング以外の授業の工夫について記入してください【全角 110（半角 220）字以内（改行は全角 1 文字）】。説明等、自由に記述することができます。

表 7 記入例) その他の工夫

その他の工夫	アイスブレイク、動画の活用、LMS (Moodle) の活用、タスクは各自のペースで実施
--------	--

8. 時間外学修の内容と時間の目安 [2019年度から様式の変更・追加]

「時間外学修の内容と時間の目安」の項目について、「準備学修」（授業全体および特定の回の準備）と「事後学修」（特定の回および授業全体の事後の学修）のそれぞれの内容の記入してください【それぞれが全角 140（半角 280）字以内（改行は全角 1 文字）】。教科書を読んでおく、講義ノートで復習するといった一般的な内容に加えて、学生に時間外学修を促すための具体的な内容を、科目担当教員が想定するおおよその時間の目安を表 5 の記入例にならって、「(○h)」のように記入してください。目安の時間の合計が、「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成する」ようにお願いします（表 8-1 の記入例は「講義及び演習（2 単位・90 分(1 コマ)×15 回）」の科目であるので、時間外学修の時間は 45 時間（5h+3h+5h+20h+4h+8h））。

表 8-1 記入例) 時間外学修時間の内容と時間の目安

時間外学修の内容と時間の目安	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(5h)。プレインストレーミングの準備をする(3h)。
	事後学修	授業で学習を活かし、課題の完成度を高める（マインドマップの課題(5h)、親和図法 A 型図解化(20h)、親和図法 B 型文章化(4h)）。小テストや配布資料を用いて復習する（8h）。

「時間外学修時間の内容と時間の目安」記載の背景

文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、シラバスへの「準備学修に関する具体的な指示」や「準備学修に必要な学習時間の目安」の記載が挙げられています。大学設置基準第 21 条 2 項では、「一単位の授業科目を四十五時間の学修を必要とする内容をもつて構成することを標準と」することが定められています。本学の多くの「講義及び演習」の授業については、「十五時間」（45 分×15 時間）の授業でもって「一単位」としていることから、講義及び演習（2 単位・90 分×15 回）の場合は、表 8-2 及び表 8-3 のように、45 時間を必要とする内容の時間外学修をもって構成されることが標準となります（1 コマ 90 分を 2 時間とし、45 分を 1 時間として計算しています）。

表 8-2 講義及び演習（2 単位・90 分(1 コマ)×15 回）の場合

準備学修	授業時間	事後学修
60 時間 (45 時間 = 2700 分 = 180 分×15 回)	30 時間 (22.5 時間 = 1350 分 = 90 分×15 回)	
90 時間 (67.5 時間) [2 単位]		

表 8-3 例) 準備学修と事後学修が同じ時間必要であるとした場合

	準備学修	授業時間	事後学修
15 週で	22.5 時間	22.5 時間	22.5 時間
1 週あたり	90 分	90 分	90 分

実験、実習及び実技については、大学設置基準第 21 条 2 項二で、「三十時間から四十五時間までの範囲で大学が定める時間の授業をもつて一単位とする。ただし、芸術等の分野における個人指導による実技の授業については、大学が定める時間の授業をもつて一単位とすることができる。」と定められています。

9. 教科書 [変更なし]

教科書について著者名、標題、出版社、発行年等を記入してください【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】。教科書を使用しない場合は、「教科書は指定しない」と記入してください。

表 9 記入例) 教科書

教科書	教科書は指定しない。 授業中に配布するプリント小冊子を使用する。
-----	-------------------------------------

10. 参考書 [変更なし]

参考書について著者名、標題、出版社、発行年等を記入してください【全角 216 (半角 432) 字以内 (改行は全角 1 文字)】。参考書を使用しない場合は、「参考書は指定しない」と記入してください。参考書が多い場合は、主なものを選んでください。

表 10 記入例) 参考書

参考書	川喜多二郎『続・発想法』中公新書、1970 年、ISBN9784121002105 トニーブザン・バリーブザン (著)、近田美季子 (翻訳)『新版ザ・マインドマップー 脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013 年、ISBN9784478017166
-----	--

11. 成績評価の方法及び評価割合 [2019年度から様式変更]

評価方法と評価割合、到達目標との対応を記入してください【1つの「評価方法」が全角42(半角84)字以内、「備考」欄が全角150(半角300)字以内(改行は全角1文字)】。評価割合は、合計が100%になるように調整してください。いずれの到達目標とも関係のない評価方法は記入しないでください。いずれの到達目標とも関係のない評価方法がある場合には、新たに到達目標を設定することを検討してください(5ページ参照)。

成績評価全体に係わる内容については、別途記入することができます。

出席点を成績評価に加えることはしないでください。平成20年度第12回教務部門会において、「授業に出席するのは当然であり、成績評価に出席を加味するのはおかしい」ため、シラバスの「成績評価の方法及び評価割合」欄については、出席したことのみをもって成績評価の加算点にする旨の記述は使用しないことで統一することとなりました。もちろん、授業に出席し、そこの学修を小テストやコメントシートなどで確認し、その評価を加味することは可能です。

表 11 記入例) 成績評価の方法及び評価割合

成績評価の方法及び評価割合	評価方法	割合	目標									
			1	2	3	4	5	6	7	8	9	10
	マインドマップ[課題1、2、3]	30%	○									
	小テスト	5%		○								
	親和図法 A 型図解化[課題4]	40%			○							
	親和図法 B 型文章化[課題5]	15%			○	○	○					
	最終課題	10%	○	○		○						
	すべての小テストと課題の合格を単位取得の条件とする。											

マインドマップを用いて、情報の整理・視覚化し、アイデアを創出できる。

ブレインストーミングの意味や意義を説明できる。

ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。

親和図法を用いて情報を視覚化・整理し、アイデアを創出できる。

大分の地域活性化を題材に、アイデアを創出できる。

「成績評価の方法及び評価割合」記載の背景

文部科学省が毎年実施している「大学における教育内容等の改革状況について」の調査項目として、「授業期間を通して課される課題(試験やレポート等)の内容」があります。

評価方法と具体的な到達目標とを対応づけることによって、成績評価が到達目標、DPに基づい

ていることを示すことができます。教員は、どのように評価するか＝何を身に付けさせたいかという教育の成果から逆向きに授業を設計することによって、効果的な授業へとつなげることができます。

学生は、到達したい目標がどの課題で問われるのかを把握して課題や試験等に臨むことができます。この情報は、学生が DP に基づいて学修を省察したり、学修のエビデンスを選択したりする際にも役立ちます。

12. 注意事項 [変更なし]

科目の履修に際しての前提条件（前提科目）や重要なルール等の注意事項について記入してください【全角 144（半角 288）字以内（改行は全角 1 文字）】。

表 12 記入例) 注意事項

注意事項	「情報処理入門」を履修済みか履修中であること。
------	-------------------------

13. 備考 [変更なし]

備考欄に参考となる情報や追加の情報を記入してください【全角 144（半角 288）字以内（改行は全角 1 文字）】。

学部専門教育科目のうち、地域創生教育科目に該当する科目については、備考欄の冒頭に「地域創生教育科目」と記入してください。

表 13 記入例) 備考

備考	コンピュータ教室を使用するため、履修希望者が教室の収容人数を超える場合には抽選を実施する。
----	---

14. リンク [2019 年度から追加]

付加的な詳細な情報を別途学部やコース等の Web ページで公開する場合には、その URL を表記してください。簡単な説明を加えることができます【「リンク」の説明が全角 72（半角 144）字以内、「URL」が半角 270 字以内】。

表 14 記入例) リンク

リンク	授業についての詳細な内容については、以下のページを参照すること。	
	URL	https://www.he.oita-u.ac.jp/course/2018/cts/

15. 実務経験者 [2019 年度から追加]

高等教育段階の教育費負担軽減措置の対象となる機関要件の1つである、シラバスに実務経験のある教員による授業について記載することに対応するため、2018年（平成30年）第8回全学教育機構運営会議で「教員の実務経験」「教員以外で指導に関わる実務経験者」「実務経験をいかした教育内容」の欄を設けることが承認されました。

実務経験のある教員が担当する科目の場合には、「教員の実務経験の有無」欄を選択してください。また、「教員の実務経験」欄に、実務経験の内容を記入してください（附属病院における医師及び看護師としての勤務経験は実務経験に含まれます）。

授業担当教員以外で実務経験者が指導に関わる科目の場合には、「教員以外で指導に関わる実務経験者の有無」欄を選択してください。また、「教員以外の指導に関わる実務経験者」欄に、実務経験の内容を記入してください（オムニバス形式で企業等から講師を招いて指導を行う授業や、学外でのインターンシップや実習等の授業が該当します）。

実務経験のある教員が担当する科目、教員以外で実務経験者が指導に関わる科目、またはその両方を満たす科目である場合には、「実務経験をいかした教育内容」欄に、実務経験のある教員や授業担当教員以外の指導に関わる実務経験者の実務経験をいかした教育内容について記載してください。

表 15-1 記入例 1) 実務経験者

教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験		臨床心理士
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者		臨床心理士、精神保健福祉士、保健師
実務経験をいかした教育内容		保健医療、福祉、教育等の分野の施設で、心理検査や心理面接（カウンセリング）に関する実習を行う。

表 15-2 記入例 2) 実務経験者（複数教員）

教員の実務経験の有無	<input type="radio"/>	
教員の実務経験		豊後梅子（キャリアカウンセラー）、大分二郎（企業経営者）
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	<input type="radio"/>	
教員以外の指導に関わる実務経験者		人事担当者、営業担当者、開発者、システムエンジニア
実務経験をいかした教育内容		企業等でのインターンシップを通じて、就業意識を高めるとともに、自己適正の正しい認識や社会人として必要なマナーや責任感を習得する。

表 15-3 実務経験者のある教員の担当する授業科目の例

教員の実務経験	実務経験をいかした教育内容
日本証券協会	金融システム・金融機関の現状や課題について解説する。
日本銀行	実体と金融の側面から、日本経済の現状等について解説する。
ファイナンシャル・プランナー	ファイナンシャル・プランニング技能検定の実務科目について指導する。
報道	現代の科学報道の社会における役割や責任について講義し、科学的成果を社会に伝えるためのコミュニケーションスキルを学ぶ授業を担当する。
臨床心理士	心理検査や心理面接（カウンセリング）に関する実習を行う。
少年鑑別所	非行・犯罪行動に関する心理学や社会学等の理論、非行・犯罪からの離脱を支援する教育方法について解説する。
カウンセラー	心の健康に関して講義する。
牧師・クリスチャンワーカー	対人援助の方法の指導を行う。
小学校教諭	いじめ問題や不登校等の今日的な課題への対応を指導する。
附属病院の医師	皮膚の解剖、生理、病理、診断や、各種皮膚疾患の病態ならびに皮膚疾患を惹起する内的・外的因子について講義する。
附属病院の看護師	エビデンスに基づいた質の高い看護実践を行うために、看護実践の理論と基盤となる構成概念を講義する。
救急救命士	救急現場における規律・安全管理及び適切な心配蘇生法について指導する。
薬剤師業務	処方箋授受から服薬指導までの流れに関する基本的知識を講義する。
アパレルメーカー	服飾の市場分析、企画、販売について指導する。
メーカーの知財部門	特許精度の基本的な知識と手法、特許を用いた研究成果の保護・活用の考え方について講義する。
現役弁護士	専門分野において実際に担当した事件等について講義する。
元警察官	警察関係法令や警察活動の概要等を説明する。
文化財調査員	遺跡の発掘調査の実習を指導する。
博物館の工芸担当学芸員	日本の工芸や服飾の歴史について解説する。

文部科学省高等教育局高等教育段階の教育費負担軽減新制度プロジェクトチーム、高等教育段階の教育費負担軽減 高等教育の負担軽減方策に関する説明会（専門学校関係者向け） 参考資料 平成 30 年 11 月 22 日を参考に作成

表 15-4 教員は実務経験者でないものの実務経験者が指導に関わる授業科目の例

教員以外で指導に関わる実務経験者	実務経験をいかした教育内容
経営者・マスコミ関係者	現代社会の課題について講義し、社会的視野を広げ自発的に考える力を養うキャリア教育科目を担当する。
企業経営者	経営理論や経営手法、地域社会への貢献のあり方について講義する。
行政機関の政策立案者	具体的な政策課題や立案の視点を講義する。
海外の科学技術政策機関の職員	学生がインターンシップに参加し、グループ調査等を行うことを通じて、科学と社会の関係を理解し、科学技術コミュニケーションの重要性を体験する。
行政や商業・農業施設等の職員・農業者	学生がフィールドスタディを通じて、課題解決に向けた実践的な地域づくりのあり方を学ぶ。
病院・施設等の実習指導者	学生が作業療法士に必要な能力を身につけるため、臨床現場の実習指導者の指導の下、担当症例の検査・測定等の評価及び問題点の抽出を行い、治療プログラムの立案を行う。

文部科学省高等教育局高等教育段階の教育費負担軽減新制度プロジェクトチーム、高等教育段階の教育費負担軽減 高等教育の負担軽減方策に関する説明会（専門学校関係者向け） 参考資料 平成 30 年 11 月 22 日を参考に作成

IV. 教務情報システム CampusSquare によるシラバス登録方法

1. 大分大学ホームページにアクセスしてください。
2. 大分大学ホームページの左下にある「学生・教職員専用」の「教務情報システム」リンクをクリックしてください。
3. 緑色の「教務システム ログイン画面へ」ボタンをクリックしてください。
4. 情報基盤センターから提供されている統合アカウントの利用者IDとパスワードを「ユーザ名」と「パスワード」欄にそれぞれ入力し、「ログイン」ボタンをクリックしてください。
5. 「CampusSquare for WEB」のメニュー画面が表示されます。上部メニューの「シラバス」をクリックしてください。以下のように、シラバス登録対象の科目のリストが表示されます。
6. 「年度」欄のプルダウンメニューから、登録するシラバスの年度を選んでください。
7. シラバスを登録したい科目の登録列にある「登録」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows the CampusSquare interface. At the top, there's a navigation bar with 'シラバス' highlighted. Below it, there's a main content area with a table of syllabi. The table has columns for 'No.', 'シラバスID', '所属', '科目コード', '科目名', '登録', and '登録期間'. The '登録' column contains '保 登録' buttons. A red circle '5' points to the 'シラバス' button in the top navigation. A red circle '6' points to the '年度' dropdown menu. A red circle '7' points to the '登録' button in the table. Below the table, there's a section for '登録ステータス (状況) の説明' with a table of codes and descriptions.

No.	シラバスID	所属	科目コード	科目名	登録	登録期間
1		教養教育			保 登録	
2		教養教育		創造的思考法	保 登録	
3		教養教育			保 登録	
4		教養教育			保 登録	
5		教養教育			保 登録	
6		教養教育			保 登録	

★ 登録ステータス (状況) の説明 ★

コード	説明
未 未着手	シラバスの登録が一度も行われていない状態
保 一時保存	シラバスが登録されているが確定されていない状態
確 確定済み	シラバスの登録が確定されている状態

8. 次のように、シラバス登録画面が表示されます。まずは、基本情報を入力してください。「インポート」ボタンをクリックすると、他のシラバス情報を複写することが可能です。
 ※システム更新に伴い、2018年度以前のシラバス情報を複写（インポート）することはできません。

講義概要

インポート 過去のシラバスを複写します

基本情報

シラバスID	
科目コード	
ナンバリング	
科目名	創造的思考法
学年 /全角60文字以内	1・2・3・4
学部 /全角300文字以内	教・経・医・理工・福
学期 /全角60文字以内	前期 水1
担当教員 /全角400文字以内	
E-mail /全角500文字以内	@cita-u.ac.jp
内線 /全角200文字以内	
選択/必修 /全角60文字以内	選択
大分を創る科目	<input type="radio"/>

一番下へ

一時保存

途中で入力を保存しておきたい場合には、一時保存することができます。一番下まで画面をスクロールするか、「一番下へ」のリンクをクリックすると、以下のようなメニューが表示されます。「一時保存」が選択されている状態で、「保存」ボタンをクリックしてください。

更新状況 一時保存 編集完了

保存 現在の入力情報を保存します

クリア 現在の入力情報をクリアします

削除 入力中のシラバス情報を削除します

文字数制限

本手引きの1ページに示す様式にも示すように、各項目には文字数制限があります。文字数制限を超過している場合には、保存の際に以下のようなエラーが表示されますので、文字数制限内に収まるように修正をお願いいたします。

シラバス登録 シラバス参照

シラバス登録

入力エラーがあります。
授業の概要は全角383文字、半角766文字以下で入力してください。

講義概要

インポート 過去のシラバスを複写します

基本情報

シラバスID

9. 講義スケジュール以下の各項目に情報を入力してください。

講義スケジュール											
授業の概要 /全角383文字以内	情報を整理・視覚化し、新たな発想を生み出すための手法について学ぶ。これらは、自由記述式の質問紙法、口頭による自由回答法の回答の分析をはじめ、企画、会議、プレゼン、人材育成、情報収集と分析などの場面で対応できる。大分の地域活性化に関するテーマでアイデアを出し、グループによるブレインストーミングを経て、創造的思考ができるようになることをめざす。										
具体的な到達目標 /各全角58文字以内		DP項目との対応									
		D P 1	D P 2	D P 3	D P 4	D P 5	D P 6	D P 7	D P 8	D P 9	D P 10
目標 1	マインドマップを用いて、情報の整理・視覚化し、アイデア	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目標 2	ブレインストーミングの意味や意義を説明できる。	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目標 3	ブレインストーミングによって、アイデアを創出できる。	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目標 4	親和図法を用いて情報を視覚化・整理し、アイデアを創出で	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目標 5	大分の地域活性化を題材に、アイデアを創出できる。	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>				
目標 6		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目標 7		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目標 8		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目標 9		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
目標 10		<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
授業の内容 /各全角74文字以内 ○ 15回 ● 30回	1	【ブロック1】オリエンテーション、マインドマップ練習： 「しあわせ」マインドマップを作成する。									
	2	マインドマッピングとは、Xmindの使い方： Xmindで「しあわせ」マインドマップを作成する。[課題1]									
	3	自己分析マインドマップの作成： 自分自身についてのマインドマップを作成する。[課題2]									
	4	読書マインドマップの作成： 1冊の本からマインドマップを作成する。[課題3]									
	5	【ブロック2】アイスブレイク、マシュマロチャレンジ： グループでマシュマロチャレンジをする。									
	6	ブレインストーミングとは： 順番ブレインストーミングの練習をする。									
	7	大分の地域活性化に関するブレインストーミング： グループで順番ブレインストーミングをする。[課題4]									
	8	【ブロック3】親和図法、IdeaFragment2の使い方、紙切れ作り： ブレインストーミングの結果をもとに									
	9	紙切れ集め： IdeaFragment2を用いた紙切れ集めをする。									
	10	紙切れ集め・表札作り： 集めたグループに表札を付けつつ、紙切れ集めを修正する。									
	11	空間配置： グループのグループを作りながら、似た内容のグループ・紙切れが近くになるよう配置を変更									
	12	関係線の描画： 空間配置を完了し、グループや紙切れ間に関係線を描画する。									
	13	A型図解化： A型図解化を完成させる。[課題5]									
	14	B型文章化： A型図解化をもとに、B型文章化をする。[課題6]									
	15	総まとめ									
	16										
	17										
	18										
	19										
	20										
	21										
	22										
	23										
	24										
	25										
	26										
	27										
	28										
	29										
	30										

<p>アクティブラーニングの 具体的な内容 /全角125文字以内</p>	<p><input checked="" type="checkbox"/> A.知識の定着・確認 <input checked="" type="checkbox"/> B.意見の表現・交換 <input type="checkbox"/> C.応用志向 <input type="checkbox"/> D.知識の活用・創造</p> <p>演習、小テスト、ルーブリックによる自己評価、グループ・ペアでの共同作業、省察ミニッツペーパー、マインドマップ、ブレインストーミング、KJ法</p>																																																																																																												
<p>その他の授業の工夫 /全角110文字以内</p>	<p>アイスブレイク、動画の活用、LMS (Moodle) の活用、タスクは各自のペースで実施</p>																																																																																																												
<p>時間外学修の内容と時間の目安 /準備学修：全角140文字以内 事後学修：全角140文字以内</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="529 456 632 539">準備学修</td> <td data-bbox="632 456 1390 539">配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(1.5h)。ブレインストーミングの準備をする(3h)。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="529 539 632 645">事後学修</td> <td data-bbox="632 539 1390 645">授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。マインドマップの課題(10h)、親和図法A型図解化(20h)、親和図法B型文章化(4h)。小テストや配布資料を用いて復習する。</td> </tr> </table>	準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(1.5h)。ブレインストーミングの準備をする(3h)。	事後学修	授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。マインドマップの課題(10h)、親和図法A型図解化(20h)、親和図法B型文章化(4h)。小テストや配布資料を用いて復習する。																																																																																																								
準備学修	配付資料や参考文献等の情報を必要に応じて予習する(1.5h)。ブレインストーミングの準備をする(3h)。																																																																																																												
事後学修	授業で学習したことを活かし、課題の完成度を高める。マインドマップの課題(10h)、親和図法A型図解化(20h)、親和図法B型文章化(4h)。小テストや配布資料を用いて復習する。																																																																																																												
<p>教科書 /全角216文字以内</p>	<p>教科書は指定しない。 授業中に配布するプリントや小冊子を使用する。</p>																																																																																																												
<p>参考書 /全角216文字以内</p>	<p>川喜多二郎『続・発想法』中公新書、1970年、ISBN9784121002105 トニーブザン・バリーブザン（著）、近田美季子（翻訳）『新版ザ・マインドマップー脳の無限の可能性を引き出す技術』ダイヤモンド社、2013年、ISBN9784478017166</p>																																																																																																												
<p>成績評価の方法及び評価割合 /各評価方法全角42文字以内 自由記述欄全角150文字以内</p>	<table border="1"> <thead> <tr> <th>評価方法</th> <th>評価割合</th> <th>目標1</th> <th>目標2</th> <th>目標3</th> <th>目標4</th> <th>目標5</th> <th>目標6</th> <th>目標7</th> <th>目標8</th> <th>目標9</th> <th>目標10</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>マインドマップ[課題1、2、]</td> <td>30 %</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>小テスト</td> <td>5 %</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>ブレインストーミング結果[</td> <td>5 %</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>親和図法A型図解化[課題5]</td> <td>40 %</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>親和図法B型文章化[課題6]</td> <td>15 %</td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td>最終課題</td> <td>5 %</td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input checked="" type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td></td> <td>%</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> <tr> <td></td> <td>%</td> <td><input type="checkbox"/></td> </tr> </tbody> </table> <p>すべての小テストおよび課題の合格を単位取得の条件とする。</p>	評価方法	評価割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10	マインドマップ[課題1、2、]	30 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	小テスト	5 %	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	ブレインストーミング結果[5 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	親和図法A型図解化[課題5]	40 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	親和図法B型文章化[課題6]	15 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	最終課題	5 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>		%	<input type="checkbox"/>		%	<input type="checkbox"/>																																																					
評価方法	評価割合	目標1	目標2	目標3	目標4	目標5	目標6	目標7	目標8	目標9	目標10																																																																																																		
マインドマップ[課題1、2、]	30 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
小テスト	5 %	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
ブレインストーミング結果[5 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
親和図法A型図解化[課題5]	40 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
親和図法B型文章化[課題6]	15 %	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																						
最終課題	5 %	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input checked="" type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
	%	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
	%	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>																																																																																																		
<p>注意事項 /全角144文字以内</p>	<p>「情報処理入門」を履修済みか履修中であること。</p>																																																																																																												
<p>備考 /全角144文字以内</p>	<p>コンピュータ教室を使用するため、履修希望者が教室の収容人数を超える場合には抽選を実施する。</p>																																																																																																												
<p>リンク /説明：全角72文字以内 URL：半角135文字以内</p>	<table border="1"> <tr> <td data-bbox="529 1460 689 1487">説明</td> <td data-bbox="689 1460 1390 1487">授業についての詳細な内容については、以下のページを参照すること。</td> </tr> <tr> <td data-bbox="529 1487 689 1518">URL</td> <td data-bbox="689 1487 1390 1518">https://www.he.oita-u.ac.jp/course/2018/cts/</td> </tr> </table>	説明	授業についての詳細な内容については、以下のページを参照すること。	URL	https://www.he.oita-u.ac.jp/course/2018/cts/																																																																																																								
説明	授業についての詳細な内容については、以下のページを参照すること。																																																																																																												
URL	https://www.he.oita-u.ac.jp/course/2018/cts/																																																																																																												

10. 実務経験のある教員が担当する科目、教員以外で実務経験者が指導に関わる科目（担当教員以外のゲストスピーカーや実習先の指導者等に実務経験がある場合）、またはその両方を満たす科目である場合には、追加情報欄に入力してください。

追加情報	
<p>担当教員の実務経験の有無 /1者択1</p>	<p><input type="checkbox"/></p>
<p>教員の実務経験 /72文字以内</p>	<p></p>
<p>教員以外で指導に関わる実務経験者の有無 /1者択1</p>	<p><input type="checkbox"/></p>
<p>教員以外の指導に関わる実務経験者 /72文字以内</p>	<p></p>
<p>実務経験を活かした教育内容 /216文字以内</p>	<p></p>

一番上へ

11. 完成したら、最後に「編集完了」を選択して、「保存」ボタンをクリックしてください。

The screenshot shows a '更新状況' (Update Status) menu. At the top, there are three radio button options: '一時保存' (Temporary Save), '編集完了' (Editing Complete), and '更新中' (Updating). The '編集完了' option is selected and highlighted with a red dashed box. Below the radio buttons are three buttons: '保存' (Save), 'クリア' (Clear), and '削除' (Delete). The '保存' button is also highlighted with a red dashed box. The descriptions for the buttons are: '保存' (現在の入力情報を保存します), 'クリア' (現在の入力情報をクリアします), and '削除' (入力中のシラバス情報を削除します).

※「編集完了」すると、修正ができなくなります。どうしても修正が必要な場合は、以下までお問い合わせください。

教養教育科目： 教育支援課教育推進グループ

専門教育科目： 学部の学務係・学務課

12. シラバスの登録の作業を終了する際には、上段右の「Logout」ボタンをクリックしてください。

本手引き（PDF 形式）およびシラバス様式（Word 文書形式）は、
以下のページからダウンロードできます。

<https://www.he.oita-u.ac.jp/syllabus/>



シラバス作成の手引き

初版 2018年8月28日
1.5 2018年10月26日
2.0 2018年12月25日
3.0 2018年12月28日
3.21 2019年12月27日
3.3 2020年12月14日
3.4 2021年12月22日

大分大学 教育マネジメント機構 教学マネジメント室
(旧高等教育開発センター)
teaching@oita-u.ac.jp